

要害無双の山城

白巣城跡



散策マップ



交通アクセス

公共交通	自家用車
[大阪から] 大阪府急三番街 高速バス約150分	[大阪から] 大阪市内より 約90分
[兵庫から] JR新神戸駅 高速バス約100分	[神戸から] 神戸市内より 約60分
JR三ノ宮駅 高速バス約 90分	[徳島から] 徳島市内より 約40分
JR舞子駅 高速バス約 60分	
[徳島から] JR徳島駅 路線バス約 90分	

洲本バスセンター
淡路島中央スマートIC

白巣城伝説

白巣城には、落城時の伝説が数多く残っており、今も地元で語り継がれています。

(1)竹の皮合戦

秀吉軍が攻めてきた際、城へと続く道に竹の皮を敷き詰めて足止めをしたが、竹の皮に火を付けられ城まで炎上した。

(2)黄金の鶏

落城の際、城主が家宝である黄金の鶏を立岩の下に隠し、自ら大蛇となって立岩に巻きつき宝を守った。今も丑三つ時には、立岩の下から鶏の鳴き声があるという。

(3)焼けた米

白巣城跡からは、焼けた米や麦が出土する。それを持って帰ると城主の祟りでお腹を壊すという。



西の丸

周辺散策

(1)河上神社天満宮

鮎原は、北野天満宮の荘園があった場所で古くから栄えた地域です。

神社に残る天文6年(1537)銘の瓦は文字瓦としては淡路最古のもです。



(2)延長寺

元は河上神社天満宮の別当寺で、菅原道真ゆかりの寺です。境内には、道真に仕えた白太夫を供養した宝篋印塔があり、市の文化財に指定されています。



(3)菅相寺

菅原道真ゆかりの寺で、境内には道真が腰かけた「菅公の腰掛石」が祀られています。



作成：洲本市教育委員会
兵庫県洲本市本町三丁目4番10号 TEL 0799-22-3321(代)
作成年月：令和2年(2020)4月

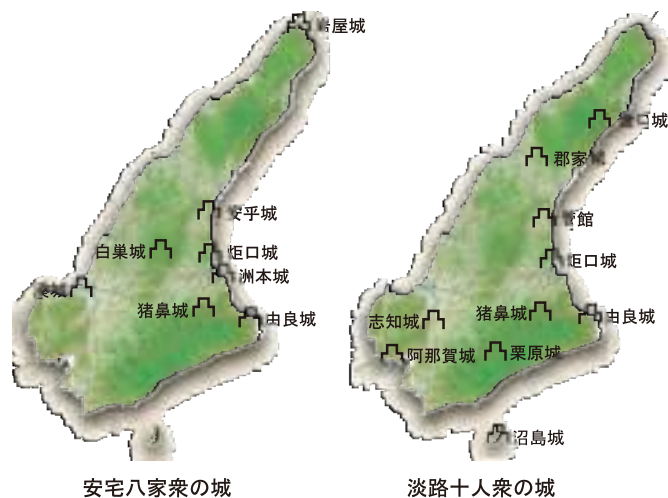
白巢城跡の位置

白巢城跡は、淡路島の中央、先山山系北尾根上の標高336mの白巢山山頂、淡路島にある城で最も高い場所に位置する戦国時代の山城です。

城からは、一所において東の大阪湾、西の播磨灘を望見できます。両海域の監視を必要とすることから、その支配域の広さをうかがい知ることができます。

淡路水軍と淡路国人衆

永正16年(1519)、淡路国守護細川氏が阿波の三好氏に滅ぼされて以降、国人が台頭する戦国時代に入った淡路島は、淡路水軍を率いた安宅(あたぎ)氏が頭角を現します。安宅氏は、淡路各地に城を築き、その主な城は「安宅八家衆」の城と称されました。白巢城もそのひとつに数えられています。



安宅氏は、三好氏とともに畿内を転戦し、三好政権の一翼を担いますが、三好長慶の弟である安宅冬康が松永久秀の讒言により自害させられると、その勢いにも陰りが生じます。

元亀元年(1570)、第一次信長包囲網に加わった淡路の国人衆は、野田城・福島城の戦いで織田信長に勝利をおさめます。この戦いで「淡路十人衆」(安宅氏も含む)が登場※、国人衆の連合体が冬康亡き後も、ある一定のまとまりを見せていたことがうかがえます。

天正9年(1581)、信長の命令で羽柴秀吉が淡路攻めを敢行。国人衆は悉く降伏したと伝わります。その中で、白巢城主は唯一抵抗し、攻め滅ぼされたと言われています。落城時の伝説は、今も地元で語り継がれています。

翌10年(1582)、秀吉配下の仙石秀久が洲本城に5万石で入城、淡路島の戦国時代は幕を下ろします。

※ 十人衆は地誌により異なる。十人衆の図は『堅磐草』による。江戸時代の地誌、『淡路常盤艸』『堅磐草』『淡路草』『味地草』を合わせて「淡路四草」といわれる。



白巢城跡の立体地図

兵庫指定史跡 白巢城跡

(1) 築城年代と城主

白巢城は、江戸時代の地誌や出土遺物から、16世紀の初め頃に築城されたと考えられています。

城主は、安宅九郎左衛門冬秀と伝わっていますが、安宅氏とどのような関係であったかは不明です。



安宅冬秀公碑

(2) 縄張り

白巢城は、南北約350m、東西約300mで120程ある淡路島の城の中でも最大規模を誇ります。『味地草』には、「高嶺四方険峻にして要害無双の地也」とあります。

曲輪は、本丸・東の丸・西の丸・馬糞場・馬責場・米倉からなり、自然の地形を活かした縄張りとなっています。

東の丸、馬糞場には土塁が施されています。各曲輪を区切るように堀切が要所にあり、中でも馬糞場北側の堀切は、淡路島の城の中でも最大の規模を誇ります。また本丸の南側斜面には、敵状堅堀らしきものが確認されます。



白巢城最大の堀切



馬糞場土塁

白巢城跡は、自然の地形を活かして築かれた淡路島を代表する城です。良好に残る遺構は当時の築城技術を知る上で非常に貴重で、令和2年3月13日、兵庫県の史跡に指定されました。